

地域自然情報ネットワーク 第8期事業報告

平成22年7月1日から平成23年6月30日まで

I 事業報告

1. 自然環境の調査解析にかかわる技術の企画・開発および評価事業

● 地域性苗木による緑化技術評価

第7期事業において提出された成果は、その後、(株)中日本高速によってCOP10において成果ビデオが英訳されて展示された。また成果の一部はPIARC (The World Road Association) のWorld Road Congress in Mexico city, 2011 (Sep. 26-30) において当会亀山理事長、中日本高速の船橋氏によって発表予定(9月)である。

● 日の出町文化財総合的把握事業

第7期においては東京都日の出町における総合的文化財把握モデル事業の中で、文化財として、あるいは様々な文化財を包含するものとして、景観調査を行い整理した。この結果を活用しつつ、第8期においては、建築、民俗、生物、石造物、仏像等の調査結果をあわせて、文化財を総合的に把握し活用するための評価と保全活用計画の策定を行った。作業ではGISによる地理的な位置情報の整備と、それにもとづく関連性の把握をすすめた。(担当 亀山 井本 梶並)

● 小笠原種子発芽試験

オフィス日野に設置されたインキュベータを利用して、小笠原において採取されたシマスズメノヒエ等の草本および木本種子の発芽試験を行った。これは媒島(なこうどじま)におけるヤギ食害対策緑化としての試みのためのものである。(担当 平城)

● 野火止用水自然環境調査及び平林寺林泉境内調査

野火止用水とその文化的な景観の保全と活用を目的として、野火止用水及び周辺の自然環境についての調査を行い、今後の保護と活用にかかわる構想への基礎的な資料とする。

本調査は2010年5月から開始されたものであり、現地の概査および具体的な調査方法の検討を行った。調査は周辺環境、水環境のことなる7つの区間を決め、その区間ごとに水生生物相、植物相の調査を行った。平林寺林泉については測量により地形、石組み、庭石及び主な樹木の位置を記録した。

(担当 梶並 北川 雨宮 井本)

● 東京都エコロジカルレッドデータブック作成

東京都エコロジカルレッドデータブックの作成を目的として、都市部(23区)を対象にレッドデータとしての判定基準の検討と見直しを行った。また、判定基準の作成のため、5回程度の現地視察も行った。作業はボランティア有志を中心にすすめた。(担当: 梶並, 井澤, 増澤, 井本, 協力: 板川, 川越, 櫻井, 奈良崎, 平城, 阿部, 宮下, 田賀)

- 茅ヶ崎住宅緑化調査

住宅団地の緑道を中心に緑化樹木の調査を行い、住民説明会にて説明を行った。(平城)

2. 自然環境情報の整備・公開事業

- 上サロベツ自然再生事業

再生技術部会および再生普及部会に参画した。環境省や北海道開発局が主体となって行っている再生事業について、意見を述べたほか、普及啓発活動の可能性としてエコツアーの可能性を検討した。(担当 増澤)

- ・阿蘇空撮(逸見)

阿蘇地域の空撮データをもとに詳細被覆図の作成を行った。(主担当 逸見、井本)

- 保護林の空中写真判読

空中写真判読により、林野庁が管轄する母樹林について、定められた範囲(25000 図で 20cm 角)において、1948 年、1972 年、1976 年、1986 年、2001 年の空中写真判読を行い、GIS データとしてデータ入力を行った。(主担当：梶並、協力：櫻井、伊藤、井本。)

3. 自然環境保全等にかかわる人材育成・啓蒙活動事業

- 東京環境工科学園 GIS 講座(導入編、活用編)

東京環境工科学園学生を対象に、自然環境分野への GIS 応用技術に関する集中講義を行った。講義では、導入編で GIS の基本的な操作方法と GPS による現場でのデータ取得等について、活用編ではベクタ及びラスター解析の基本とポテンシャルマップづくりを行った。テキストは近年の動向に対応させると同時に改訂を行い、よりわかりやすく、もれのない講座の実施を行った。なお、受講生は、導入編は 19 名、活用編は 8 名であった。(主担当：梶並 協力：櫻井、井澤、伊藤(麻)、平春、井本)

- 国際自然環境アウトドア専門学校への GIS 出前講座

国際自然環境アウトドア専門学校の学生を対象に、自然環境情報にかかわる基本的な事項、GPS による現地でのデータ取得演習、ポテンシャルマップ作成、作った主題図を使ったレイアウトなどについて授業を行った。なお、受講生は 1 名で、アシスタントも含めて 2 名の講師により 5 日間の集中講義を実施した。(主担当：梶並 協力：井澤)

- ESRI ユーザーコミュニティ会議へブース出展

2011 年 6 月 2 日から 6 月 3 日に東京ミッドタウンで開催された ESRI コミュニティフォーラムに活動報告ポスターを作成して展示し、来訪者に活動について紹介した。GIS を仲立ちとした交流の機会となった。また、梶並、井澤、櫻井の連名によるポスター『市区町村の木と花～自治体のシンボルから見える地域色～』がポスター賞(2 位)を受賞した。(主担当：梶並 協力：井本、平城、増澤、伊勢、熊田他多数)

- ESRI ワールド会議への参加

2010年7月に米国サンディエゴ市で開催された国際ユーザー会議に2名の会員がNPOとして参加した(参加者 増澤, 熊田)。

(備考) 2011年7月に米国サンディエゴ市で開催された国際ユーザー会議に1名の会員がNPOとして参加している(参加者 増澤)

- 東日本大震災にかかわる支援事業(地名翻訳)

シアトル在住の今木さんを中心に地名翻訳プロジェクトを会員に呼びかけ有志が手伝った。(担当 今木)

- 東日本大震災にかかわる支援事業(内閣府データ整備)

東北地方太平洋沖地震緊急地図作成チーム(EMT=Emergency Mapping Team)に加わり, ArcGISを利用したデータ整備を手伝った。作業はボランティアとして行われた。(平城, 他)

<http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/emt/index.html>

<http://www.esri.com/community/gisnews/g096.html>

- 地域自然情報研究会

月一回の定期開催を続け, 情報提供・情報交換・人材育成に努めた。第8期では開催が2ヶ月に1度程度となったが幅広いテーマを扱うことができた。毎回, 約20名近くの参加者を記録し, 研究会の意義を再確認した。(担当 井本, 梶並)

- 阿蘇自然再生協議会にかかわるGIS講座(担当逸見)

GIS講座を阿蘇で開催した。利用ソフトウェアおよびデータではSpotImage社のPlanetActionから提供されたものを利用した。(逸見・伊勢)

- Planet Action(Spot Image社)への参加

Planet Actionにおける気候変動の緩和プログラムに「都市の生態的に重要な場の抽出」, 普及プログラムに「GIS講座の開催」として参加した。(井本, 梶並, 八十島, 伊勢)

<http://www.planet-action.org/>

4. 自然環境保全にかかわる支援活動事業

- 西武・狭山丘陵パートナーズ指定管理業務

東京都建設局の公園指定管理者として, 「都立公園狭山丘陵グループ」に自然環境GISの整備と管理・運営への活動提案をする。第2期目 5年間の初年度にあたる。第1期の5年において蓄積したデータの更新管理と利活用が主なる課題。

(担当: 平城, 井本, 梶並)

- ・都民協働・情報整備: 資料データの整備と検索のためのデータ整備と都民活動への情報提供を引き続き行った。

- ・自然情報整備: レンジャー取得データのデータベース化を行っている。

- ・情報公開: WebGIS(マップサーバ, GOOGLE API)で情報公開の試みを継続

- ・植物管理：管理記録のデータベース化とGIS整備をすすめた。履行確認資料などの作成が簡単に行えるようになった。今後の活用方法の検討が必要
- ・アトラス：狭山丘陵公園アトラス（整備）を活用・更新することを検討

- 阿蘇草原再生協議会

前期に引き続き生物多様性翔委員会に参画し、前期に策定された阿蘇草原再生全体構想に基づき、GIS環境マップの作成や地元団体との協働によるGIS講座開催を提案する。

（担当 逸見）

5. その他の事業

- メーリングリスト・ホームページの維持管理

メーリングリストの管理を行う。ホームページは月1回程度の頻度で更新。メーリングリストは入退会に応じて随時行った。（井本、梶並，八十島）

- 入会パンフレットの作成

ESRIコミュニティフォーラムにあわせ、パンフレットの改訂を行った。（梶並）

- ニュースレターの発行

休刊中、ホームページ等の媒体への移行も要検討

II 会員数

第8期末において以下のようなものである

- ・ 正会員 2011年6月30日 現在77名
- ・ サポート会員 2011年 6月30日 現在 46名
- ・ 賛助会員（法人） 現在 6法人
（株）緑生研究所，（株）地域環境計画，朝日航洋（株），国際自然環境アウトドア専門学校，
（株）環境指標生物，（株）あい造園設計事務所
- ・ 寄付：1団体（GCN有志）

III 報告書・印刷物・学会発表等

- 日の出町
- 新座市
- ESRI-J コミュニティフォーラムでのポスター展示（市の花，市の木 会員有志），ワールドユーザー会議での英語版発表。